

事業所健診における外国人労働者の末梢血液所見

野 津 立 秋

キーワード：職場健診，外国人研修生，白血球増加症，サラセミア

要 旨

産業医をしている会社での、健康診断（健診）において、ベトナム人研修生（20歳代の男女）で白血球数の増加があり、ストレス由来を疑わせた。更に同研修生（女性）29人中2人にサラセミアが認められた。2019年4月から入管法が改正され、外国人特に東南アジアからの労働者が増加する。産業医として健診結果の事後措置を行う際には、外国人特有の疾患の存在、異国で働くという精神状態を加味する必要がある。

はじめに

産業医としての職務は大きく分けて総括管理と健康管理に分けられ、その内容は多岐にわたる。後者は労働者の健康状態を把握し、職場要因による健康被害を未然に防ぐことを目指しており、毎年行われる健診の実施や事後措置は極めて重要である¹⁾。今回、著者が嘱託産業医をしている会社の健診において、外国人研修生と日本人社員での末梢血液所見を比較検討した。

対 象

会社は各種包装機械製造・工場レイアウト企画・設計等を総合的に展開しているが、今回の健診結果は、嘱託産業医をしている松江工場（主に

プラスチック製品を製造）で働く社員のみである。

当該工場では毎年海外からの研修生（20代の男女数十人）を受け入れており、平成28年（2016年）までは中国人を、平成29年（2017年）からはベトナム人であった。

健診は研修生も日本人社員と同様に、同一項目で行われているが、健診委託先は平成28年までは境港済生会病院、平成29年からは島根県環境保健公社で行われている。ただし前者では健診報告書に白血球数とHt値の記載はなく、後者において記載があったため、20代男女のベトナム人研修生と日本人社員男女の比較である。

検 査 結 果

表1において、女性の白血球数はベトナム人研修生では最高値14600/ mm^3 、最低値5200/ mm^3 、平均8352/ mm^3 で、29人中5人が10000/ mm^3 を超えていたが、日本人では平均5275/ mm^3 で、最高値も6000/

Tatsuaki NOZU

野津医院

連絡先：〒690-1101 松江市本庄町565-1

野津医院